

印刷の内製化で情報発信力を強化すると同時に、障がいのある方の能力を活かして働く場を拡大

国立大学法人 名古屋大学
総務部 人事課 業務支援室 様



名古屋大学 総務部 人事課 業務支援室は、Smile、Support、Social Responsibilityの3つを理念として、障がいのある方が笑顔で働く場の拡大を目指しています。

所 在：愛知県名古屋市千種区不老町
設 立：2011年1月1日
職 員：38名（うち障がいのある方29名）
業務支援室職員
内 訳：知的 28名（うち重度14名）
精神 1名
2013年3月1日現在

事 業：オフィスサポート、図書館支援、
保育園支援、園芸、学内製版ほか

法人名：国立大学法人 名古屋大学
所 在：東山キャンパス
愛知県名古屋市千種区不老町
鶴舞キャンパス
愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65
大幸キャンパス
愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20

創 立：1939年5月1日
代 表：名古屋大学総長：濱口道成氏
職 員：3,219名（2012年5月1日現在）

背景

名古屋大学は、1939年に名古屋帝国大学として設立、自由闊達な学風の下で、世界トップレベルの研究や人材育成を推進し、4名のノーベル賞受賞者を輩出しています。昨今では、社会や地域への貢献・事業継続性・環境への配慮など、大学の社会的責任（University Social Responsibility = USR）も求められるようになってきています。

このような背景から、国立大学法人として障がいのある方の雇用促進にも積極的に取り組みはじめ、2011年1月に、コピー用紙の点検・補充、古紙回収、AEDの点検などのオフィスサポートを事業とした業務支援室を設立、指導員2名、用務補佐員（障がいのある方）6名でスタートしました。その後、学内保育園や附属図書館の支援、キャンパス内の園芸へ業務を拡大しましたが、さらに障がいのある方の能力を活かせる場が広げられないものか、検討していました。

一方で、学内で保有する学術情報資産を積極的に活用して大学からの情報発信力を高めるために、製版・印刷・製本を学内で内製化できないかと7～8年前から考えていました。大学には、各種の会議・会合に関する印刷や、学生・同窓生などのコミュニティにまつわる印刷、大学・学部の案内、研究論文などパンフレットや冊子にする情報が数多くあります。こうした印刷物をオンデマンド印刷機で内製化（学内製版）することにより、より質の高い情報発信を行うことができるのではないかと考えたのです。しかし、当時、運営に必要な人材を確保することができず、実現はできませんでした。

導入のポイント

富士ゼロックスから“学内で障がいのある方の業務として印刷・製本を内製化しませんか”という提案を受け、「障がいのある方の能力を活かして学内製版を行えば、『大学からの情報発信』と『障がい者の活躍の場の拡大』、二つを同時に実現できる、とピンと来て、単なるコスト削減でなく、大学のUSR活動としてのドキュメントセンターの設立を検討し始めました。」
（総務部 職員課長 大矢様）

こうして国立大学初の規模となるドキュメントセンターの立ち上げで重要だったことは、印刷品質を高く保ち、同時に障がいのある方の能力を活かしていきいきと働いていただくためには、単に建物やプリンターやシステムなど、環境を揃えるだけでは不十分で、バックヤードとして人や業務を支援する仕組みが欠かせない、ということでした。そこで名古屋大学では、障がいのある方の支援として指導員を配置し、業務の支援として富士ゼロックスの運用支援サービスを導入しました。

名古屋大学を定年退職後、再雇用で指導員になられた武田さんは次のように語りました。「ドキュメントセンターの設立当初は、私もプリンターの操作教育を受けたばかりで、障がいのある方たちの能力を活かすために、どういう印刷物を受注し、簡単すぎず、難しすぎず、なにをどの順で作業をしてもらうのがよいか、試行錯誤が続きました。7月からは週2回の定期訪問による富士ゼロックスの運用支援サービスを導入し、私たちと一緒に考えてもらい、少しずつ経験を重ねて改善していった感じです。」

成果

模索しながらの立ち上げでしたが、いろいろな冊子やマニュアルなど印刷物の製品ができ始めると、その完成度・品質の高さに対して、予想以上に良いと評価を受け、今では、学内でもここまでできる、と自信をもって制作に取り組んでいます。

「いただいた原稿をそのまま印刷してください、と依頼されても、完成品に納得がいけないと、データの歪みも含めて修正し、完成度を高くしようとしてしまいます。」と笑顔で語る武田様と大矢様。「納期にも遅れたことは一度もありません。」

一方、学内のドキュメントセンターに依頼すると、見積書・納品書・請求書などのやり取りが発生しないため、依頼者にとってかなりの工数削減となります。また学内で制作しますので、情報のセキュリティを保つこともできます。

そして、障がいのある方が輝く場を作る、というセンター設立の目的も達成し、指導員の支援の下、Web入稿の確認から印刷・製本・納品まで障がいのある用務補佐員が全ての作業を行い、その品質の高さも口コミで広まり、利用者が拡大しています。

「完成したら、必ず直接、お届けします。納品の時に『ありがとう』と喜んでいただけるのがとても嬉しいです。そして納品後にWebシステムで注文を『完了』にして、みなで拍手をして『お疲れさまでした。』と言い、一つの業務が終了となります。この瞬間も大きな喜びで大切にしている習慣です。」（武田様）

「始めは指示待ちだった彼らが、今では毎朝、自ら、『今日はなにをするか』を宣言してから



700 Digital Color Pressを操作している様子

スタートします。私は補足や優先順位をアドバイスするだけです。障がいがあるから彼らを守るのではなく、叱るときは叱り、褒めるときは褒める。黙ってフォローしてしまうと彼らの成長を止めてしまいます。少しずつ試行錯誤しながらできることを広げています。」（武田様）

将来の展望

国立大学では初の障がいのある方が就業するドキュメントセンターは、運用が軌道に乗り、品質の高い印刷・製本で大学の情報発信力の向上に貢献し始めています。

「まずは、製品の完成度をより高めるために、印刷に加えてデザインの知識やノウハウを高めていきたいと考えています。これにより、今の業務に加え、新たな業務に幅を広げることができそうです。」と武田様。

「これからは、業務量が増えることを想定し、用務補佐員の増員や後輩の育成なども考えていく必要があります。富士ゼロックスには、今後も継続して先行した取り組みの情報やノウハウを教えていただきたいと期待しています。」と上野様。

「名古屋大学で試行錯誤した経験をモデルパターンにして、障がい者の就業に取り組むところへ活かしていただきたいと思います。」と大矢様からは、富士ゼロックスへの期待をいただきました。



オンデマンド印刷のサンプルで作成した卓上カレンダー



印刷、製本をオンデマンド印刷で内製化



名古屋大学

総務部人事課
人事主幹

上野哲也様

総務部職員課
課長

大矢淳一様

総務部人事課
指導員

武田実様

概要

《背景》

- 学内で印刷・製本を内製化し、大学の情報発信力強化を図りたいと検討したが、人材の確保が課題となっていた
- 障がいのある方の雇用を促進するため業務支援室を設立、さらに能力を活かせる場を拡大できないかを検討
- 単なるコスト削減でなく、USR活動として「情報発信力強化」と「人材の活用」を実現するためのドキュメントセンターを設立

《導入のポイント》

- 品質の高い冊子・印刷物が制作できる
- センターの運用を支援するサービス
- 操作性の高いオンデマンド印刷機とWeb受発注システム

《成果》

- 品質の高い印刷製品で発注者から高評価、業務量も増加
- 依頼者の感謝を受けて、用務補佐員のモチベーションが向上
- さまざまな印刷製品の製作を通して、用務補佐員の業務品質が向上

富士ゼロックス株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3

Tel 03-6271-5111（代表）

お問い合わせは、公式HPのお問い合わせフォームよりお願いします。

<http://www.fujixerox.co.jp/>

